

ウィズコロナの経験を活かす

－これからの学校図書館について考えるために－

庭井史絵（青山学院大学）

2020年5月26日、休校期間中の学校図書館における取組を共有できるよう、「2020 新型コロナウイルス対策下の学校図書館活動」<<https://sites.google.com/view/covid19schoollibrary/top>>というWebサイトを作成、公開しました。きっかけは、4月23日に文部科学省が「休館中の図書館、学校休業中の学校図書館における取組事例について」<https://www.mext.go.jp/content/20200423-mxt_kouhou01-000004520_6.pdf>を公開したことです。この文書では、学校図書館が提供できるサービスの例として以下の4項目が挙げられていました。

- －時間を区切ったの**図書の貸出し**
- －分散登校日を活用した**図書の貸出し**
- －郵送等による配達**貸出し**
- －学校司書によるおすすめ**絵本の紹介**など

しかし実際には、「図書の貸出し」や「本の紹介」にとどまらない、多様な図書館サービスが提供されていたことが、サイトに集まった実践事例から明らかになりました。そしてこれらの取組は、学校教育が大きく変わろうとしている時代に、学校図書館のあり方を考えるヒントになるものでした。

1 学校図書館への期待・求められた役割

- 文部科学省や自治体が発出した文書から
- 全国学校図書館協議会など団体が発出した文書から

2 コロナ禍における学校図書館サービスのリアル？

- サイトに寄せられた情報と個別インタビューから
- 学校図書館や図書館関係の機関誌、新聞記事、Webサイトの情報から

3 休校・休館で学校図書館という「場所」を失った経験を生かすには…

- 学校図書館の3つの機能（学習センター・情報センター・読書センター）
- 学校教育との連携（ICT、GIGAスクール構想、探究学習、情報リテラシー、著作権…）
- コミュニケーションと情報発信
- 近接領域での学び

以上